グリーン交悠録

御手洗さんと米国でゴルフ三昧

「霞ヶ関」の亥年会で幼馴染と再会

元富士銀行代表取締役常務 **野村邦武**さん

霞ヶ関カンツリー倶楽部

接待ゴルフに明け暮れた銀行マン時代

大中　最近ゴルフは全然やっていないなあ、と野村さんは言いながらも、先日お会いしましたら、「霞ヶ関カンツリー倶楽部に通っている」と仰っていましたが（笑）、最近は1年にどれ位回っておられるんですか。60回ほどですか。

野村　そんなに行っていませんよ。そうですねえ、多くても月3回程度でしょうか。

大中　ということは、年に40回前後の計算となりますね。でも、霞ケ関ばかりではなく、友達に誘われて別のコースに行かれるとか。

野村　いや、最近はほとんど霞ケ関ですよ。

大中　メンバーになられたのは。

野村　平成3（1991）年ですから、かれこれ四半世紀前、バブル期の頃ですね。

大中　と言うことは、銀行を辞めてからですか。

野村　そうですね。ちょうどその頃になりますね。

大中　銀行マンの時はどれ位ゴルフをされてましたか。仕事柄、相当コースに通ったのでは。

野村　随分やってましたねえ（笑）。もちろん、その大半が取引先を招待したり、お返しされたりする「接待ゴルフ」でしたから、半分は仕事でした。とにかくバブル時代は忙しかったですよ。

大中　ちなみに、富士銀に入られたのはいつですか。

野村　昭和33（1958）年です。

大中　その時の頭取はどなたでしょうか。

野村　金子鋭さんです。

大中　では、ゴルフとの出会いは、その後支店を何カ所くらい回った頃ですか。

野村　いや、実は国内の支店は東京の新橋支店しか知らないんです。

大中　え、それは珍しいですねえ。

野村　そうなんですよ。入行時に新橋支店に配属され、2度目は取締役支店長として、また新橋支店に行ったんです。

大中　なるほど。

野村　しかもその時、私が入行した際にいた女性行員が、まだ何人か現役でおられたので、嬉しいというか、何となく心強かったですね。

大中　それも凄いですね。

野村　それなのに彼女達ときたら「入行時、あんなに初々しかった野村さんが、支店長として赴任して来たのはいいけれど、大丈夫かしら」と言わんばかりの顔をするんですよ（笑）。

大中　それはけしからんですね（笑）。しかし、新橋支店と言えば、富士銀でもトップクラスですが、当時、規模的にはどれ位でしたか。

野村　内幸町や丸の内が目と鼻の先でしたから、取引する上場企業は60社以上ありました。ちょっとした地銀並みの規模でした。

大中　この支店の当時用の個性、特徴はいかがでしたか。

野村　そうですねえ。一番の自慢と言いますか、私が支店長の頃ばかりでなく、後任や、さらにその後任の頃は、まさに世はバブルの狂乱時代だったのですが、その大きな支店で貸し倒れがほとんどなかったことですね。

大中　一体どうしてですか。

野村　それだけ手堅い商売に徹していた、ということでしょうか。怪しげな取引先は一切敬遠しました。もちろん、銀座の何某など、ちょっと素性の怪しげな人達もよく来店しましたよ。

大中　でも、勇気をもってご辞退したわけですね。

野村　そうです。分かりますからね。

ロンドンでの上司の勧めで ゴルフに病みつき

大中　そこでゴルフとの出会いですが、入行時に早速支店長が行内ゴルフコンペに半強制的に誘ったのか、それとも支店長が「お前もゴルフくらい覚えないとダメだぞ」と言われて、クラブを握ったのかどちらですか。

野村　実は、私がゴルフを始めたのはロンドン支店にいた頃で、その時、上司に進められましてね。

大中　へえ。そして、ゴルフの虜になったのはいつですか。

野村　もうその時からですよ（笑）。ロンドンでは週末にはよくコースに出ていました。ゴルフの先生はもちろん英国人紳士で、ロンドン市内にあるゴルフショップのオーナーが、ゴルフレッスンの先生も兼ねていたんです。

大中　その後、ニューヨークにも赴任なさっていますが、その時ゴフルはされましたか。

野村　ここでもよくゴルフをしましたね。その時ゴルフを通じて最も親しくなったのが、同い年のキヤノン会長の御手洗冨士夫さんです。

大中　へえ。

野村　御手洗さんとは、季節を問わず何十回プレイしたか分からないくらいですよ。

大中　御手洗さんのゴルフはいかがでしたか。

野村　いやいや、豪快でなおかつ愉快なゴルフで、一緒にプレイしていて、実に楽しかったですよ。

大中　ところで、現在の霞ヶ関にまつわる、これぞ、というエピソードはありますか。

野村　そうですねえ。亥年会という集まりに私は参加しているんですが、ここで10年ほど前に、びっくりするような再会があったんです。

大中　びっくりするような、ですか。

野村　そうです。亥年会ですから、メンバーにはひと回り、ふた回り上や下の亥年生まれの方もおられるんです。懇親会の時に、どこの学校だったかなど、雑談が始まるじゃあないですか。そこで私は、少々お酒も入っていたこともあって、「神戸の兵庫師範付属小学校にいた」と大声で話したら、私の反対側にいた人物が、「えっ、僕もそうだ」と言うのです。

大中　へえ、それで。

野村　しかも、その人物は同い年で当時の担任の先生の名前を出したら、それも同じ。つまりは同じクラスだったんです。これには驚きました。小寺純一君、ソニーの常務だった人間です。

大中　小学生の頃以降は、彼とは全然会ってなかったんですか。

野村　はい、一度も会っていません。小学校4年生でまだ10歳かそこらの時に、戦争で学童疎開して、そのまま離れ離れになりましたからね。そしてお互い70歳を超えて、約60年ぶりの再会ですよ。

大中　それは凄いですね。しかし、これもゴルフだからこその奇跡ですね。面影はありましたか。

野村　それが、あったんですよ（笑）。一気に60年前の記憶が蘇ってきました。しかも偶然にも、クラブのロッカールームもごく近くです。

大中　今でもお元気ですか。

野村　ええ、彼はとても元気です。

大中　まさに、宿縁の学友兼ゴルフ友達ですね。

野村　いや、これは実に嬉しかったですね。ですから、ゴルフの友達で2人挙げろ、といわれたら、迷わず御手洗さんと小寺君を挙げますよ。

大中　ところで、ホールインワンとイーグルの経験は。

野村　イーグルはありますが、ホールインワンは1度もありませんね（笑）。

大中　「あともう少し」というのは。

野村　あと10㎝とかはありました。

大中　そこで、この話になるとこのエピソードなのですが、元日銀総裁の福井俊彦さん、元太平洋セメント相談役の諸井虔さん、ウシオ電機会長の牛尾治朗さんと、茨城県の水海道ゴルフ倶楽部でのプレイの際、雨上がりのショートホールで私はホールに半分ボールが入っている、という経験をしたことがあるのです。

野村　ほお、それも凄いですね。

大中　私は必死にジャンプして「入れ！」と念じたのですが、1分ルールで、結局駄目でした。お蔭で私もまだ、ホールインワンはゼロです（笑）。

野村　それは残念でしたねえ。

大中　最後に、野村さんにとってゴルフとは。

野村　やはり、よき友人との出会い、そして幼馴染との再会、ですね。

大中　有難うございました。